

1. 序論

白色は、色彩学では無彩色に分類されるが実際には非常に多くの微妙な色合いを持っている。白色が最も使われるものとしてウェディングドレスがあり、以前より私はウェディングドレスの白色に興味を持っていた。ウェディングドレスを制作する専門家から、20代は蛍光ホワイト（以下KW）が人気で、かつ似合う色であり、30代から40代はオフホワイトやアイボリーなど少し黄味がかかった色が好まれ、実際着用されていると言われている。本研究では何故KWは20代の日本人女性に人気があり実際に似合うのか、また20代の日本人女性にはアイボリー系の黄味以外の色相を持つ白色ではどのような色が似合うかを調査した。

2. 実験

白色には生成り、アイボリーなど、KW以外の白色にも多くの表現と種類があるが、ウェディングドレスの白色といえばKWと考える人も多い。本実験では、KWをベースにごく淡い色相の染料を用いて染色したものを調査用の白色布とした。

使用した布はポリエステルサテン100%のKWの布を50×120cmのサイズに揃えた。染める色は、マンセルの基本色相の5色である赤色、黄色、緑色、青色、紫色のごく淡い色に加え、布本来の色のKWの計6色を評価用の白色として提案することとした。

実際にアンケートを行う際、肌の色の異なるモデル1とモデル2の二人を使った。方法は布を顔と首以外を隠すように羽織り、肩より下方を布で覆い、回答者に各モデルの肌の色と布の色を評価させた。

図1. モデル1



図2. モデル2



3. 結果

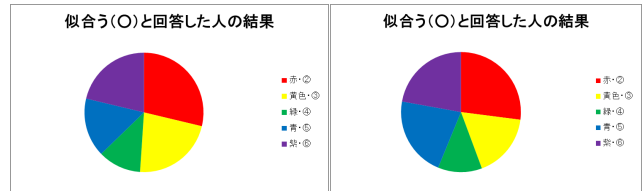


図3. モデル1

図4. モデル2

グラフに示されるように赤色の支持が多く、肌の色が明るく見えるという意見が多かったことからモデル1に似合う色は赤色であると示された。また、モデル2に似合う色も前者と同様に赤色であると示された。理由はモデル1と比べ各色に差はないが、赤、紫、黄と肌の色に近い色が比較的多く、また血色がよく見える等の意見が各色あったが一番似合う色は赤色と結果になった。

4. 考察

モデル1の肌の色は、比較的黄色寄り（イエローベース）であり、肌の色のパーソナルカラーがスプリングタイプか、オータムタイプと考えられたことから、アンケート結果が赤色になったと推測される。その為血色のよい色に見える、赤い色の布が、より肌の色を引き立つように見せた可能性が考えられる。

次にモデル2の肌の色は黄色みを帯びており（ブルーベース）、パーソナルカラーがサマータイプか、ウインタータイプと考えられていることから、理由は、モデル1と比べ各色に差はないが、赤、紫、黄と肌の色に近い色が比較的多く、また血色がよく見える等の意見が各色あったが、赤色と結果になった。

そして今回の結果が同じ赤色について、20代の肌では透明感があり赤みがあるため、同じ赤色になった可能性があると考えられる。30代～40代女性の場合、加齢とともに血流量が徐々に低下し、顔色が黄色く見え、メラニンが作用しシミ等になり顔がくすみ黄色く見えるため黄色寄りの白色＝アイボリーなどが好まれるのではないかと考察した。